研究の概要

「創る喜び　伝える喜び
～感性豊かに未来へつながる～」

1　はじめに

先を見通すことが極めて難しい変化の激しい現代社会において、子どもたちが自ら問いを立てて主体的に表現し、他者と協働しながらよりよい社会をともに創り出していく力を育むことは、学校教育における最も重要な使命の一つです。図画工作科及び美術科においては、感性や想像力を豊かに働かせ、対象や事象を形や色などの「造形的な視点」で捉えながら、自分なりのイメージを広げて新しい意味や価値を創り出すことが、何より重視されています。

東青地区（青森県東津軽郡及び青森市）小学校教育研究会図画工作科部会では「子どものよさをひきだす造形教育を求めて～つくりだす喜びを味わわせるための造形的な見方・考え方を培う指導～」を、中学校教育研究会美術部会では「造形的な視点を生かし、創り出す喜びがあふれる授業の工夫～広がる・深める・豊かな感性～」をそれぞれ研究主題に掲げ、子どもの発達段階に即した指導の工夫について実践的な研究を重ねてまいりました。

① 子どもたちが自ら材料や場所と関わり、夢中になって「つくること」を楽しむ姿。②友達の作品を見つめながら多様な美しさや表現の面白さに気付き、感性を豊かに表現し合う姿。③創造することに喜びを感じる姿。これらを日常の授業の中にいかにデザインしていくかが、私たちの研究の核となっています。

令和８年１１月５日(木)及び６日(金)の２日間、ここ青森市において「第７０回東北造形教育研究大会　青森大会」が開催されます。

本大会は、東北各県から図画工作・美術教育に携わる多くの小学校・中学校の先生方が青森市に集い、これまでの研究成果を公開授業として発信する、歴史ある教育研究大会です。

本大会が、青森市内の小・中学校あわせて計４つの公開授業と、その後の分科会、実践発表、講演会を通して、参加者の皆様とともに図画工作・美術教育の未来に向けた確かなつながりを紡ぐ、有意義な機会となることを願っています。

2　大会テーマについて

本大会のテーマは「創る喜び　伝える喜び～感性豊かに未来へつながる～」です。このテーマには、造形的な見方・考え方を働かせ、自分の思いを形にする「創造する喜び」と、表現することを通じて他者や社会と関わり合う「つながる喜び」の双方を、子どもたち一人一人に豊かに実感させたいという、当研究部会の強い思いが込められています。

3 研究の概要

＜研究の視点＞
造形的な見方・考え方を働かせて、自分の思いを「創造する喜び」と、表現することを介して「他者や社会とつながる喜び」を実感する授業のあり方の研究

① 造形的な見方・考え方を引き出す「出会い」の工夫【発見】

子どもの造形的な見方・考え方を自然に働かせるためには、材料や場所、空間との出会いの演出が極めて重要です。

・土、紙、木などの素材が本来もつ形や質感、色の感じ、触った感覚を十分にとらえることのできる環境（「出会い」）の工夫
・身の回りの場所や空間、光や風などの自然現象を「造形的な視点」で見つめ直す、能動的な気付きの支援
・「これを使ってみたい」「おもしろそう」という強い表現への欲求と発想を広げる導入の追究

② 創る喜びを支える試行錯誤の過程の工夫【試行】

創る喜びを支え、子どもたちが自己表現の楽しさに浸ることができる、粘り強い試行錯誤のプロセスを大切にし、自ら考え、工夫する力を育みます。

・低学年の「できた！」という直接的な達成感や行為の楽しさから、中学年の「見たこと・用途」への広がりの重視
・高学年や中学生における、表したいことに合わせ表現に適した材料を総合的に選び、方法を組み合わせて工夫する力の育成
・試行錯誤の課程で偶然できた形や痕跡の面白さなどに着目し、新たな発想へと結び付ける柔軟な支援の在り方



③ 伝える喜びを広げる鑑賞の工夫【対話】

伝える喜びを広げ、一人一人のよさや個性を認め合うことのできる言語活動と対話的な鑑賞を工夫し、新たな気付きを促します。

・友達が表現に込めた心情や、制作プロセスのアイデアを丁寧に見取る、児童生徒が自発的に行える鑑賞設定の工夫
・自分の表現が友達にどのように伝わったかを知る、または友達の表現を受け止めることを通した多様性の尊重
・「明暗の対比」や「リズム」などの造形に関する言葉を用いながら、自分の見方や感じ方について根拠をもって伝え合う対話場面の充実

④ 感性を未来・社会へつなげる場の工夫【接続】

造形活動を通して得られた感性や資質・能力を、地域、社会、そして子ども自身のよりよい未来の生活へと接続します。

・地域の身近な自然環境や、棟方志功の美術文化やねぶた祭りをはじめとする風土・伝統と豊かに関わる学習体験の推進
・自分のつくった作品が誰かを笑顔にす

る、役に立つといった社会の一員としてのやりがいを伴う自己形成の支援

・校内への作品展示などを通し、日常の生活において美術的な関心をもち、豊かに生きる力の礎とすること





4　おわりに

本大会で公開される、４つの授業は、すべてこの「創る喜び　伝える喜び」を軸に、研究部会員や協力校の先生方が何度もワークショップや研修会を重ね、粘り強い試行錯誤の末に構築した授業実践です。

ねぶたの家「ワ・ラッセ」という、青森の伝統文化を力強く発信するメイン会場にふさわしく、地域に根ざし未来へとつながる造形教育の在り方を発信できると確信しております。

私たちは、本大会を一過性のイベントとするのではなく、本大会のテーマを通じて培われた青森、そして東北各地の先生方の教育研究への情熱とネットワークを、これからの時代、そして未来の社会を担う子どもたちの「豊かな情操と感性」を育み続けるための確かな礎として、今後も着実に研究に努めてまいります。多くの皆様のご参加、そして熱い対話とご助言を心よりお待ち申し上げます。

